性胃炎，潰瘍，静脈瘤の頻度が高率だった。早期胃癌発見率は1.14%であり，良好な成績と考えられた。

40. 当科における肝細胞癌症例の治療成績について

和泉秀彰，星本相浩，福田和司
岩居　武，国吉　孝，大久保裕司
関　秀一　（横浜労災）
千葉省三　（同・内科）

［目的］当科における肝細胞癌の治療成績を検討し，今後の治療向上に役立てる。［対象］1994年4月から1997年3月まで診断治療を行った肝細胞癌症例57例［結果］2年生存率はChild Aで54.7%，Bで48.6%，Cで9.1%，全体での3年生存率は，18.9%であった。［結語］肝予備能が生命予後に大きく関与しているものと思われた。

41. 当院における食道静脈瘤に対するEVL・EIS併用療法の治療成績

大久保裕司，星本相浩，福田和司
和泉秀彰，岩居　武，国吉　孝
関　秀一　（横浜労災）
千葉省三　（同・内科）

［目的］食道静脈瘤に対するEVL・EIS併用療法の有用性と安全性を明らかにする。［対象］30例の肝硬変（10例に肝癌合併）［結果］F1残存群の方がF0群に比して早期に再発がみられた。重篤な合併症は無く，経過観察中の静脈瘤破裂は無かった。［結語］本療法は有用で安全と思われた。

42. 肥満外来における肥満治療と皮下脂肪・内臓脂肪の推移

田所直子，増田美央，平野憲朗
豊田充孝，篠浦　拓，遠藤伸行
篠宮正樹　（船橋済生）

肥満外来の治療効果を総括し，減量成功例における脂肪量の変動を観察した。患者総数は74例，平均年齢50才，BMI30で耐糖能異常・高血圧・高脂血症等を伴う内臓脂肪型が中心であった。10kgの減量成功例は13例で全体の17%であった。その脂肪量の変化は，皮下脂肪・内臓脂肪いずれも減少する傾向を認めたが，一部の症例では内臓脂肪の減少にも関わらず皮下脂肪の増加を来すこともあり今後詳細に検討したい。

43. 気腫性腎盂腎炎で発見された未治療糖尿病の1例

森田秀和　（賛育会病院）
鈴木浩太郎，石塚伸子，大村昌夫
西川哲男　（横浜労災）

糖尿病通院歴の全くない69才女性症例で意識障害を主訴に来院。CRP6+，血糖335mg／dl，尿ケトン2+，発熱38℃にて即入院となった。腹部CTにて両側腎盂に気腫像を認め，気腫性腎盂腎炎と診断，インスリン強化療法及び抗生剤強化治療を行い，臨床症状は改善し両側の気腫像は消失した。従来，気腫性腎盂腎炎は極めて難治性で，即刻，外科的治療が必要とされている。糖尿病患者で意識障害，発熱を生ずる例で本症を鑑別する必要がある。

44. 糖尿病の経過中にネフローゼ症候群を呈した膜性腎症の1例

竹田治代，村田秀行，轡田達也
関　浩一，中川洋一
（下都賀総合）
川村　功　（同・外科）

18年来の糖尿病歴のある42歳男性。今回著明な下肢浮腫を主訴に入院した。神経症及び網膜症の進行が認められないにも拘わらず，ネフローゼ症候群を呈した為，腎生検を施行し，膜性腎症と診断した。尿蛋白は，抗血小板薬，ステロイド，免疫抑制剤投与にて改善をみた。糖尿病の経過中に顕性尿蛋白を認め，他の合併症の進行がみられない場合には，原発性腎炎を疑って，腎生検を考慮すべきと思われる。

45. 抗胸腺細胞グロブリン（ATG）投与後1年間にて効果が得られた，重症型再生不良生貧血の1例

小泉正幸，加々美伸一郎，平澤　晃
佐藤忠嗣，西川哲男　（横浜労災）
若林芳久　（同・輸血部）

ATG治療後3カ月，および6カ月間で無反応と効果判定され投与1年後に治療効果を認めた1例を経験した。他施設でも通常治療抵抗性と考えられるケースで長期観察にて治療反応を認める症例が報告されつつある。免疫環境の悪化が特に重篤でありその改善により長時間を要したと推測される。このような例でもなお幹細胞に造血能の改善の可能性が残されていることことよりATG治療症例では長期の観察と効果判定が必要と考えられる。